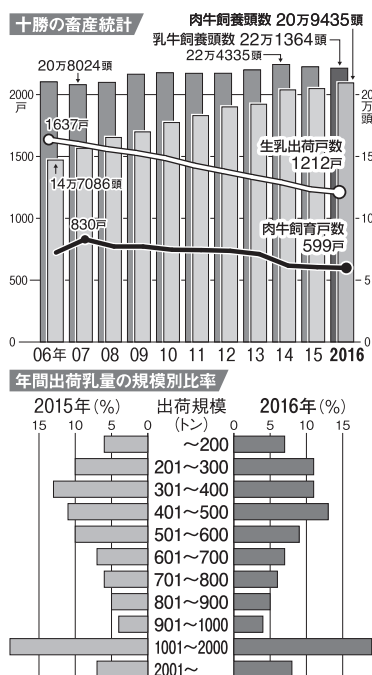


規模拡大、1頭乳量も増加 肉牛個体販売は過去最高さらに更新 十勝農協連2016年畜産統計

十勝農協連（山本勝博会長）は、2016年の畜産統計をまとめた。酪農は生乳出荷戸数1212戸で、前年から23戸減ったものの、規模拡大や経産牛1頭当たりの乳量の増加で、年間の生乳生産量は前年に比べて2.8%増えた。肉用牛は黒毛和種の雌牛、去勢牛ともに個体販売の市場価格が26%増と、過去最高をさらに更新した。

■乳用牛 生乳生産2.8%増



乳牛の飼育戸数は2.7%（37戸）減の1349戸。経営体別の内訳は、個人経営が55戸減の1155戸、法人経営が18戸増え194戸となった。101~200頭を飼育している個人経営農家が372戸（32.2%）で最も多い。実際に生乳を出荷している農家戸数は、1.9%（23戸）減の1212戸で減少が続いている。

乳牛の飼育頭数は0.5%（1118頭）減の22万1364頭。中でも子牛から初回受胎

までの育成牛の減り方が大きく、1.5%（1444頭）減の9万6791頭だった。

年間生乳生産量は2.8%多い116.1万トン。経産牛1頭当たりの乳量は9321キロと前年より2.5%上回った。生乳出荷農家1戸当たりの平均生産量は958.1トンと4.7%の伸び。農家戸数減による生産減を、規模拡大と1頭当たり乳量増加でカバーし、全体で前年を上回った。

■肉用牛 飼育頭数2.2%増

全体の飼育戸数は6戸減の599戸だが、飼育頭数は20万9435頭で2.2%（4578頭）増えた。主な種別では、黒毛和種の飼育戸数は13戸減の489戸で、飼育頭数は3万5940頭で1.2%（427頭）減った。ホルスタイン種（肉用）の飼育戸数は、5戸減の92戸。飼育頭数も2.8%（2722頭）減の9万5969頭となった。一方で、交雑種

（F1、その他を含む）の飼育戸数は前年と同じ125戸で、頭数は11.2%（7697頭）増の7万6652頭。品薄の肉牛を生産しようと乳牛に黒毛和種を交配する動きが影響したとみられる。

■個体販売 黒毛素牛25%高

乳用、肉用の市場価格は、高値だった前年をさらに上回り、過去最高水準。1頭当たりの平均価格は、乳用の育成牛が39.7%高い43万円、初妊牛が28.3%高い75.6万円、経産牛が20.4%高い44.2万円と大きな伸び。酪農家の減少や和牛との交配によって乳用子牛が不足して高値で取引された。

肉用牛の素（もと）牛も高値で、黒毛和種の雌が25.7%高い75.3万円、去勢が25.6%高い87.8万円。F1も雌が3.6%高い37.3万円、去勢も6.5%高い46.7万円となり、右肩上がりが続いた。府県農家の生産基盤が弱まる中、ホクレン十勝家畜市場が注目を集めている。

■馬・豚 馬は飼育17戸減

馬は飼育戸数が17戸減の160戸。このうち軌系（ばんけい）馬は11戸減の99戸だが、飼育頭数は761頭で5%（36頭）増えた。豚の飼育戸数は前年と同じ26戸。繁殖豚は6968頭で23.1%増。肥育子豚は5万4975頭で20.4%増えた。

■飼料畑 草地面積は拡大

一般草地面積は6万2687ヘクタールで、0.5%（333ヘクタール）拡大した。飼料用トウモロコシ面積は2万2504ヘクタールで3.2%（696ヘクタール）増えた。

1戸当たりの平均飼料畑面積は、2.2%（1.1ヘクタール）増の50.7ヘクタール、乳牛1頭当たりの飼料畑面積は前年並みの0.31ヘクタールだった。飼料畑中の飼料用トウモロコシ畑の比率は1.9ポイント増の26.4%だった。